

誇るピーマン日本一

食糧供給基地・西都市の農業の柱はピーマンである。農協単位の出荷量は日本一。栽培に取組んで十年、歴史は浅いが先進地高知県産を北九州市場で追い抜き、関西市場でも需要の半数以上を占めるまでに成長した。そのピーマン生産地が妻地区だ。

四八〇人の生産者

妻地区を中心とした西都平野に



全国の二割を生産

先進地高知を追い落とす

西都農業の主役

加温促成栽培ピーマンとの出荷

いは三十九年。同市三百市、甲斐

野さくら九八の農家が、四

五年前からピーマン栽培をす

た先進地・高知県を訪れて技術を

学び、八十坪のハウスを造ってス

タートした。西都農業改良普及

所、農協、市役所の技術加を企画

した集団指導体制を設け、U字形

に仕立てる整枝法、三連採（千坪）

のハウス、ビニールカーテン自動

開閉装置を構築し、独自の栽培技

術を確立した。生産者の一人平均

収量は三・八坪にも伸び、

所在するビニールハウスの奥が、ピーマンの作付面積は百十九畝、

初冬の淡い日差しを浴びて白く映

える。その中には緑の列が何十

にも走り、つややかな子供のこ

ろくで知られる西都ピーマンの

生産工務だ。

西都農協によると、今年の冬番

わけた。

もどちこれほどの作付面積が

あったのではない。日本人の食

活の変化とともに需要が支え、年

々、二十一億四千円、ほとん

くを造って拡大してきた。西都

市の西都農協を母体の出荷で年

産は、今年冬番は約一万二

千坪、約二十三億円を見込